

## 水循環と資源再生に向けたソリューション

Solution for Water Cycle and Resource Recycling

## 巻頭言

## 水問題のトータルソリューション技術の開発と普及に向けて

Toward Development and Adaptation of Total Solution Technologies for Global Water Issues

21世紀は水の世紀と言われ、最近の海外ニュースを見ていると、オーストラリア、アメリカ、イエメンでの干ばつや、中東のサウジアラビアでの洪水など、世界各地で異常気象による水問題が報道されています。また、あまり報道はされていませんが、様々な国や地域で、水不足や水質汚濁は年を追うごとに深刻となっています。これらの問題は、国や地域ごとに異なった特徴がありますが、個別の水問題に対応するのではなく、地域全体の水問題への解決策が求められているのは共通しています。そのためには、人と自然と技術が調和し、それぞれの地域に合ったトータルな解決策（ソリューション）を見いださなければなりません。この意味で、日本の環境技術が、個別技術の集まりから、様々な状況に応じた問題を解決するためのトータルソリューション技術となりうるかどうかの重要な転換点が来ています。

日本の水分野では、これまでも長年にわたり新しい技術の開発が行われてきました。しかし、これからは国内外の環境技術に対するニーズが多様化し、変化することを考えると、個別の技術開発だけでなく、それらの技術をトータルとして生かすような技術の開発も行う必要があります。昨年、下水道分野では下水道グローバルセンター（GCUS）を立ち上げ、日本の下水道技術の海外への普及に向けて本格的な取組みを始めました。海外では、よりいっそうトータルなソリューション技術が求められることでしょう。また水道分野でも、昨年、水道の安全保障に関する検討会が、水道の広域化と公民連携をこれから取り組むべき重要課題と位置づけました。このように、広域化や公民連携が本格的に進めば、これまで別々に管理、運営されてきた施設を、少ない人員でより効率的に運営するための技術や、そのような技術を生かした水道経営が求められてくるでしょう。

このように、これからの水分野の技術開発では、市場ニーズとシーズ技術の有機的な結び付きをもとにした、トータルソリューション技術が生まれることを期待しています。

滝沢 智  
TAKIZAWA Satoshi